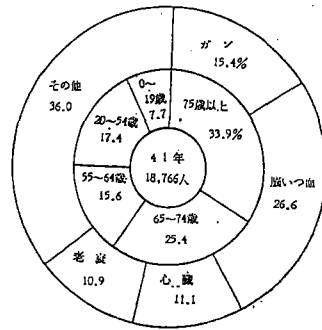


105. 死因別死亡者数 (1)

昭和9～11年平均死亡率(人口1,000人に対する割合)は18.9人(全国平均17.5人)であったが、戦後急速に低下し、昭和29年以降10人以下となり、41年には6.8人で全国平均と同様となった。

グラフは死因別構成をみたもので、脳いっ血26.6%、ガン15.4%、心臓11.1%、老衰10.9%の順になっている。前年に比較して総数で5.1%減少し、心臓7.8%、老衰7.3%減少したが、脳いっ血1.1%、ガン0.7%増加している。

死因別、年齢階級別死亡者数の構成



死 因	昭和39年	昭和40年	昭和41年
総 数	18 600	19 784	18 766
呼吸器系の結核	505	507	440
その他の結核	42	33	15
梅毒およびその続発	37	31	42
腸チフス	1	-	-
コレラ	-	-	-
赤痢	13	17	14
猩紅熱およびレンサ球菌性口炎	-	-	-
ジフテリア	-	1	3
百日咳	-	1	1
髄膜炎	3	2	1
急性灰白髄炎	-	1	-
麻疹	19	15	18
発疹チフスおよびその他のリケッチア病	-	-	-
マラリア	-	-	-
伝染性および寄生性として分類されたその他の疾患	94	90	63
悪性新生物	2 850	2 874	2 893
良性および性質不詳の新生物	125	137	139
糖尿病	98	129	133
貧血	30	44	33
中枢神経系の血管の損傷	4 769	4 930	4 984
髄膜炎	31	26	27
リユーマチ熱	19	18	13
慢性リユーマチ性心臓疾患	113	109	115
動脈硬化症および変性性心臓疾患	1 524	1 744	1 662
その他の心臓疾患	345	406	305

厚生省大臣官房統計調査部調

105. 死因別死亡者数 (2)

死 因	昭和39年	昭和40年	昭和41年
高血圧性心臓疾患	343	384	417
その他の高血圧性疾患	187	213	198
肺気腫	9	229	21
腸支	617	799	598
胃腸閉塞および十二指腸炎	155	198	159
胃腸閉塞および十二指腸炎	255	254	256
腸閉塞および十二指腸炎	28	22	13
胃腸炎、十二指腸炎、腸炎および大腸炎	88	83	93
肝硬変	376	316	302
腎炎およびネフローゼ	151	183	178
腎臓病	266	257	249
前立腺肥大	20	17	16
妊娠、分娩および産褥の合併症	41	48	35
先天性奇形	106	122	119
出生時の損傷、分娩後窒息および肺不全	51	80	44
新生児の感染症	106	95	59
その他の新生児固有の疾患および性質不明の未熟児	378	359	286
精神病の記載のない老衰ならびに診断名不明および不明の原因	2 048	2 199	2 039
その他のすべての疾患	1 303	1 397	1 218
自動車事故	473	496	555
その他の不慮の事故	590	574	633
自殺および戦争	347	314	334
他殺および戦争	44	30	43

106. 理容所、美容所、旅館、公衆浴場等施設数

各年12月31日現在

年	理容所	美容所	普通旅館	公衆浴場	温泉利用	興行場	クリーニング所
昭和35年	2 663	1 369	1 312	350	32	158	812
36	2 737	1 482	1 077	366	36	157	894
37	2 818	1 574	1 136	373	39	155	893
38	2 936	1 713	1 603	378	41	144	951
39	3 094	1 909	1 268	387	46	132	1 064
40	3 263	2 088	1 370	417	49	126	1 212
41	3 435	2 319	1 480	422	54	118	1 476

環境衛生課調 注) 38年の普通旅館にはホテル、旅館および簡易宿泊営業を含む。